

# 敬 愛

甲斐市立敷島中学校  
学校だより 第11号  
平成30年 1月12日(金)  
発行 長田 靖

## 新しい年を迎えて

### 寒い時期は「蓄えのとき」

新しい年が明けました。保護者の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。旧年中は、本校の教育活動に対しまして、ご理解とご支援をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。



今年の干支は戌、「戌」の字には「作物を刃物で刈り取りひとまとめに締めくくることが」という意味があるそうです。生き物としての犬は社会性があり、忠実な動物です。人との付き合いも古く、親しみ深い動物で、ペットとして飼っているご家庭もおありかと思えます。また犬はお産が軽いとされることから、安産については「戌の日」が吉日とされています。さらに、戌の干支の特徴としては、“勤勉で努力家”とあります。そんな干支にあやかって、充実の日々を送りたいものです。

さて、冬季休業中も生徒達は部活動に参加したり、3年生は面接練習のために登校して意欲的に活動していました。3学期は1年の締めくくりの学期であり、高校入試や卒業式などの大きな行事が待っています。

1月は「往く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と言われるこの3か月です。授業日数を数えてみると52日、卒業していく3年生にとっては45日しかありません。短い期間ではありますが、1日1日を大事にして、卒業や進級に備えて「蓄えのとき」にしてほしいと思います。

始業式では、学年代表の生徒が3学期の抱負を述べました。また、新生徒会長からの呼びかけもありました。4人とも自分のすべきことがよくわかっていて、しっかりとした決意が感じられる発表でした。

発表してくれた代表の生徒だけでなく、530名の生徒1人1人が3学期や新年の抱負を持っていることと思います。「初心忘るべからず」の諺がありますが、この節目に志した意気込みを忘れることなく、粘り強く取り組んでほしいと願っています。

また、生徒たちの思いに応えられるよう、『信頼される学校』づくりに向けて、我々全職員も一丸となって邁進していく所存です。

私は始業式でこんな話をしました（裏面の囲みの中）。

それは今から23年前に起こった「阪神淡路大震災」、それに遭遇した学生時代の友人から聞いた話です。7年前の東日本大震災ですら、だんだんと私たちの記憶から遠ざかりつつあるような気がします。犠牲になられた多くの方の冥福を祈り、今も不自由な生活を強いられている実態から目を背けることなく、尊い教訓として心に刻まなければなりません。

さて、1月というと、私は平成7年に起きた阪神淡路大震災を思い出します。私の大学時代の友人が、神戸の長田区に住んでいました。被害が大きかった地区です。地震が起きた後、彼とは何日も連絡がつかせませんでした。やっと声が聞いたのは、地震が起きてから5日目でした。彼は奥さんと小学校に上がる前の女の子の3人家族、マンション住まいだったのですが、タンスや食器棚などの家具は倒れ、重たいテーブルは横滑りして、角が部屋の壁にめり込み、建物が歪んだせいで入り口のドアは開かなくなってしまい、ベランダ伝いに隣の住人のところから脱出したとのことでした。地震の後には近くにある実家に身を寄せていて、たまたま物を取りに来たら電話が鳴っていた…。

この地震では、6,400人もの方が亡くなりました。前日までは、普通に生活していた人達です。いつ来るかわからない地震を恐れて、神経を尖らせても仕方ないのですが、地震などの災害が起きた時、自分の命は自分で守れるように、しっかり考え、正しく判断し、的確に行動できるような生徒でいてほしいです。みなさんには、そういう力を普段の学校や家庭での生活の中で身に付けてほしい。そして、自分がそういうことができる子どもであることを、お父さん・お母さんにちゃんと理解してもらってほしい。それが、お父さん・お母さんの命を守ることになるからです。

## 印弗魯英撒

難しい漢字が並んでいます。何と読むかという、「インフルエンザ」です。今から280年ほど前、江戸のお医者（伊東玄朴）さんが『医療正始』という医学を学ぶ本に、日本の書物に初めて「インフルエンザ」のことを書きました。当時、インフルエンザはかかると命を落とすことが多い恐ろしい病気でした。伊東玄朴は、この恐ろしい病気を次のように漢字で表し、世界中からやってきてまき散らしている様を見事に表現したのです。

時代は下って、今から百年ほどの前の大正7年の5月。大相撲の夏場所は、「これまでと全く違う、とてもうつりやすい病気」で出場せず全休する力士が相次ぎ、「相撲風邪」ということばが生まれました。スペインの王様や総理大臣までがこの病気にかかり、「スペイン風邪」と呼ばれたこのインフルエンザは、世界中で4千万人、日本でも45万人が命を落としたと言われています。しかも、このスペイン風邪は次の年の春先にはいったん収まったものの、菌が毒性を増して再び猛威を振るって多くの人を苦しめることになります。

今年は、この先インフルエンザの大流行が心配されています。敷島中でも数人が欠席しています。栄養を取り、体を休めて抵抗力を付け、不要な外出をしないことや、手洗い・うがいなどで予防に心がけ、学年の終わりまでのあと3カ月を健康に過ごしていきましょう。

「印」	= 印度 (インド)
「弗」	= 弗蘭西 (フランス)
「魯」	= 魯西亜 (ロシア)
「英」	= 英吉利 (イギリス)
「撒」	= まき散らす

## 七草がゆ

日本に伝わる伝統的な食文化のひとつで、1月7日に七種類の野菜を入れたお粥を食べて病気をしないことを願うものです。

おせち料理を食べ過ぎた胃袋を休め、冬に不足しがちな野菜を食べて栄養を補給するという意味もあるそうです。1月7日は冬休み最後の日曜日でしたが、みなさんのお家ではどうだったでしょうか。

ところで、この春の七草を言うことができますか。実は私もうろ覚えなのです。

「**せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ**」です。これらは特別な野菜ではないのです。たとえば、「**すずしろ**」は大根の葉ですし、「**なずな**」というのはよく道端で見ることができます。

年賀状のやりとりを始め、1月は新年の喜びをわかちあいながら、お互いの健康と幸せを祈るという月でもあります。こうやって考えてみると、日本にはすてきな伝統文化がたくさんありますね。毎日を健康で明るく、楽しく送れるようにしましょう。

